

民生委員・児童委員の活動を発信!!

Well うエル おおさか

23
2010.7

特集 第62回 大阪府民生委員児童委員大会

民生委員・児童委員が
活動しやすくなるために
八尾市民生委員児童委員協議会

◎イキイキ ハツラツ
民生委員・児童委員さん
池田市民生委員児童委員協議会

民児協だより
豊能町民児協／寝屋川市民児協
松原市民児協／泉佐野市民児協
東大阪市民児協連

◎府民児協連REPORT
街頭PR活動



表紙の作品と作者

●社会福祉法人 光輝会●

寝屋川市

[隆光学園]
輝きステーション
のみなさん



色とりどりのカラフルな足ふきマット。実は靴下の製造過程で生じる輪っか状のハギレを編んで作られたものなのです。このマットを作られているのは、寝屋川市にある社会福祉法人 光輝会 隆光学園 輝きステーションのみなさんです。

この足ふきマットの製作を始めたのは今から15年ほど前のこと。靴下の町として知られる奈良県広陵町の靴下工場の方からハギレである輪っかを譲っていただいたことからスタートしたといいます。

作業は、輪っかを受け取りに広陵町の工場へ向かうところから始まります。利用者にとっては外出を兼ねていることもあり、とても楽しみになっているのだとか。次は受け取った輪っかを色分けする作業です。色分けと同時に、肌触りを確認しながら素材ごとにも分類するので、職員でも難しいそうですが、利用者のおみなさんは慣れた手つきでババッ



それぞれ役割分担をして、色分け、輪通し、編みの作業を行います



利用者の作業は手慣れたもので、手元を見ることなく編んでいく方もおられました。悩みは材料の輪っかが全国的に人気で、手に入りにくくなったこと。「付近の斑鳩町や田原本町の靴下工場にお願いに行っています」と職員



と分けていかれます。その後、色分けしたものを一つにまとめる輪通し作業を行い、マットを実際に編んでいきます。

「簡単そうに見えて根気のいる作業。最初の頃は糸の色が変わると編めなくなる人もいたのですが、職員が土台を作った後に利用者自身がデザインを変えて編んだり、丁寧に仕上げようと工夫したりと、知らず知らずのうちに考えて作業するようになったことが私たちにとっても新しい発見でした」と職員の伊藤さんは話します。

完成したマットは、バザーで販売するほか、受注注文、さらに近隣のコンビニエンスストアの店頭でも販売しているそうで、売れ行きも上々だといいます。購入された方からは「丈夫で気に入ったからお友達に買っていきます」という声もあったとか。その品質が認められ、初めて出品した平成21年度の大阪府授産製品コンペティションで「大阪府知事賞」を受賞されました。カラフルで丈夫な足ふきマット、あなたのお宅にもいかがですか？



【お問い合わせ先】
TEL.072-837-0101
FAX.072-837-0102

編集後記

児童虐待や自殺問題を考えるといつも「人と人とのつながりの希薄化」が課題としてあげられます。お互いに助けあい、支えあうことができる地域社会を再構築することがいかに大切か考えさせられました。難しい課題ですが、少しずつ自分ができることを実践していきたいと思います。

Well うエル おおさか vol.23
(通巻57号)

発行日：平成22年7月

発行：大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局：大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487

URL <http://www.osakafusyakyo.or.jp/minkyo/>



この冊子は再生紙を使用しています。

■表彰状・感謝状授与者

厚生労働大臣特別表彰 **10名**

大阪府知事表彰

永年勤続民生委員
会長・副会長表彰(10年勤続) **1名**

永年勤続民生委員表彰(20年勤続) **117名**

優良民生委員表彰(10年勤続) **111名**

永年勤続主任児童委員表彰(20年勤続) **1名**

優良主任児童委員表彰(10年勤続) **2名**

社会福祉事務職員に対する
大阪府民生委員児童委員協議会連合会
会長感謝状 **66名**

活動事例発表



「地域社会での孤立・孤独をなくすことをモットーに活動していきたい」と述べる四條畷市民児協の田中理事。

に、民生委員・児童委員の皆さまのご協力が不可欠。今後とも大阪府政の推進にご理解・ご協力をお願いしたい」と住民の立場に立った地域福祉を推進する民生委員・児童委員への活動に期待を寄せました。

次いで府社協の梶本徳彦会長が「府民児協連がDVDの制作をはじめとするPR活動に取り組み、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりを推進していることは大変心強い。地域で暮らすあらゆる人々が地域の一員として尊重される福祉と共生のまちづくりをともに進めていきたい」と述べました。

また、府民児協連の羽原義人会長は、「本年度は3年に一度の民生委員・児童委員の一斉改選。福祉の停滞は許されず、継続されなければならない。委員の皆さまには強い意志と信念のもと、事情の許す限り引き続きご就任いただき、地域福祉の向上にご尽力いただきたい」と各委員へ協力を願いました。

活動事例発表では、四條畷市民児協の田中一弘理事が「孤独死防止に向けた取り組みについて」をテーマに、田中理事が実際にかかわった孤独死とその後の取り組みを発表しました。「孤独死防止に向け、きめこまやかな情報収集を行い、さまざまな機関と連携しながら、孤独死のサインに気づくことができる活動をさらにすすめていきたい」と今後の抱負を述べました。



高石市民児協
野々宮 博司さん

司会



大阪府社会福祉協議会
梶本 徳彦 会長



大阪府民児協連
羽原 義人 会長



大阪府
総山 哲男 副知事

第62回 大阪府民生委員児童委員大会



特集

第62回 大阪府民生委員 児童委員大会

日時 平成22年5月14日 13時～15時30分

会場 大阪国際交流センター大ホール

当日は、大阪府内の民生委員・児童委員（約800名）をはじめ、多数の来賓が出席する中、長年にわたり活躍されている民生委員・児童委員への表彰や記念講演が行われました。

第一部の記念式典では、主催者あいさつとして橋下徹大阪府知事のメッセージを総山哲男副知事が代読。「子どもの尊い命が失われる児童虐待事件が続発している。誰もが安心・安全に暮らせる大阪を実現するため



長引く景気の低迷で、雇用環境が厳しさを増す中、自殺者数は12年連続で3万人を超え、特に20～30代の若者の自殺や「生活苦」や「失業」による自殺が増えています。今回は、自殺防止活動を行っている白浜レスキューネットワークの理事長である藤藪 庸一さんに記念講演をお願いしました。

記念講演

つながりを求めて

◎自殺予防の支援と地域の役割について◎

生きる希望を見出す支援とは
—自殺志願者から—

学んだこと—

白浜レスキューネットワークでは、1979年から30年間の活動を通して、1000名を超える自殺志願者とかかわってきました。彼らの多くは戻る場所、家族を持っていません。私たちは彼らを保護し、ともに共同生活をしながら自立をめざす、生活自立支援事業を行っています。

自殺したいとまで落ち込んでしまった人を立ち直らせるために必要なものは、時間と生活の場所です。彼らに対して、抱えていた問題を解決する、毎日の生活を保障するなど、状況を良い方向へ変えることで、死にたいという気持ちを乗り越えさせていきます。

自殺志願者を社会復帰させるにあたつては、彼らが生きてきた背景が問題となりました。彼らは幼少期から親がいない、貧しい、勉強が苦手、学校やクラス、社会に馴染めないなど、家庭環境や教育環境で劣等感を抱いていました。こうした劣等感は「自分は頑張ってもだめだ」というあきらめを生み、性格をゆがめます。卒業後もリストラや何度も失敗する就職活動で「いらない」と言われ続けた人は、真っ先に自信を失い、人を信じられず、心に傷を負います。

そうして育った彼らは、困難を避ける、失敗した時は黙ってやり過ごす、自分が理解されないのは相手のせいだと判断するといった傾向があります。私たちは、彼らに同じ過ちや失敗をくり返させないために、考え方を変えるように言葉をか

第62回 大阪府民生委員児童委員大会 大会宣言

一、住民一人ひとりの置かれている状況や思いを真摯に受け止め、住民の立場に立った「寄り添う」個別援助活動を推進します。

一、複雑で困難な生活課題を抱え、支援を必要とする人を発見し、支援につなげるとともに、孤立・孤独をなくし、地域住民とのつながりづくりに取り組みます。

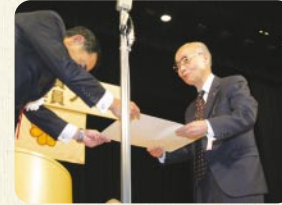
一、子育て中の家庭を支えるとともに、子どもを児童虐待や犯罪被害から守り、子どもが健やかに成長できるよう取り組みます。

一、要援護者が災害時に孤立することがないように、災害時を想定した安否確認体制を構築する取り組みを進めます。

一、本年の一斉改選時における円滑な引き継ぎや、新任民生委員・児童委員への情報提供などの体制づくりを図るとともに、組織活動や広報活動の強化など、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりに努めます。

平成22年5月14日

第62回 大阪府民生委員児童委員大会



永年勤続民生委員・児童委員表彰 代表
大東市民児協
石川 安一さん



厚生労働大臣特別表彰 代表
岸和田市民児協
岡内 武義さん

表彰状授与式では、厚生労働大臣特別表彰を受けた10名をはじめとする多くの民生委員・児童委員に表彰状、社会福祉事務所に携わる職員に感謝状が贈呈され、長年の功績を称えました。

また、府民児協連の妹尾副会長が大会宣言を読み上げ、あらゆる人々が地域社会の一員として尊重される「福祉と共生のまちづくり」を実現するためのさまざまな取り組みを進めていくことを確認しました。

続く第二部では、白浜レスキューネットワーク理事長の藤藪庸一さんによる記念講演が行われ、最後に民生委員の歌「花咲く郷土」の斉唱が行われ、参加した民生委員・児童委員は活動への思いを新たにしました。



社会福祉事務職員に対する
府民児協連会長感謝状 代表
大阪府中央子ども家庭センター
長嶺 澄江さん



優良主任児童委員表彰 代表
太子町民児協
増田 富美代さん



永年勤続主任児童委員表彰
豊中市民児協連
大西 洋さん



優良民生委員表彰 代表
島本町民児協
富家 孝さん



特定非営利活動法人
白浜レスキューネットワーク 理事長
藤藪 庸一さん

1972年和歌山県生まれ。白浜バプテストキリスト教会の牧師に就任後、白浜三段壁の「いのちの電話」の自殺防止活動を引き継ぎ、2005年に白浜レスキューネットワークを設立。自殺志願者の生活自立支援事業などに携わる。

自殺問題は多岐にわたりますが、援助する側もされる側も社会という「群れ」で生きる力を身につけることが必要です。時間のかかる作業ですが、社会をつくるという自覚を持って、対策を考えることが根本的な自殺対策ではないかと思っています。

また、私たちは自殺対策の活動を教育の分野にも広げています。子どもに基礎学力と社会性を身につけさせ、夢や目標に向かう力を持たせることで、他者とともに生きる力、助け合える仲間を持つ力を得られるからです。

自殺したいと悩む人は助けを求めているのに、声を聞いてくれる場所を失っています。ともに社会で生きる私たちが考えなければならぬ問題です。

け続けました。

自殺志願者が立ち直るには人の助けが必要です。しかし、人と人とのつながりが希薄になった今、自殺したいと悩む人は助けを求めているのに、声を聞いてくれる場所を失っています。ともに社会で生きる私たちが考えなければならぬ問題です。

こうした自殺を取り巻く問題に対して行政で

もさまざまな制度を設けていますが、生きる場所を失った人の最後の頼みの綱は生活保護しかありません。しかしこの制度も財政的に限界がきています。生活保護は社会のセーフティネットとして必要ですが、それと同時に人生をやり直すための時間と場所を提供することに焦点を当てる、働ける人は共同生活を通して自立をめざす。この方法は、社会でも理解されるのではないのでしょうか。

また、私たちは自殺対策の活動を教育の分野にも広げています。子どもに基礎学力と社会性を身につけさせ、夢や目標に向かう力を持たせることで、他者とともに生きる力、助け合える仲間を持つ力を得られるからです。

自殺問題は多岐にわたりますが、援助する側もされる側も社会という「群れ」で生きる力を身につけることが必要です。時間のかかる作業ですが、社会をつくるという自覚を持って、対策を考えることが根本的な自殺対策ではないかと思っています。



取材当日は、会長、副会長と各地区委員長、各部会長から、さまざまなご意見を伺いました

は、大変苦労されている。この連絡会場で委員長が一堂に会してそれぞれの地区で、自分が抱えている課題を話し合える忌憚のない意見交換の場の必要性を感じ、皆さんに呼びかけ、賛同していただいた」と正田会長。地区委員長連絡会の出席率は90%と高く、非常に充実した活動が行われているようです。

また、子育てやひとり暮らし高齢者、孤独死など、地域のさまざまな課題に対して支援を広げていくために、どのような活動を行うか、また、地域の諸団体との連携をいかに構築していくかということも地区委員長連絡会でアイデアを出しながら検討。池田市民児協の中核組織である企画運営委員会にも地区委員長連絡会での意見をフィードバックしています。

「市町村民児協としての方針を決める時にも、地区委員長を通して民生委員一人ひとりの意見を取り入れることができるようになった。地区委員長連絡会を設けてから、活動運営の方向性が変わってきたと思う」と正

田会長はいいます。地区委員長が地区の意見を集約して地区委員長連絡会で発表、その後、企画運営委員会へ問題提起し、各部会で検討していく、という下から上への流れで運営がすすめられています。

池田市民児協では、民生委員の選出にあたって民生委員推薦準備会を立ち上げ、地域住民へ民生委員活動をPRするなど、他にも民生委員が活動しやすいするための取り組みをすすめています（本紙22号 平成22年2月発行参照）。

また、全ての民生委員が何らかの部会に所属し、孤立せずに活動できるような環境をつくっている点も池田市民児協の特徴です。全委員176名が「児童福祉部会」「高齢者福祉部会」「生活福祉部会」「広報部会」「主任児童委員部会」それぞれの部会に各地区から参加。部会では、それぞれ月1回の会合や研修を実施す



正田会長を中心に、地区委員長連絡会、各部会が協力し、活動をすすめています

るほか、地域の施設や団体、行政と接点を持ちながらさまざまな活動を行います。そうした部会での研鑽を地区委員会に持ち帰って、委員同士が互いに情報交換し、よりよい民生委員活動へとつながっているようです。

「これからも『あの時は助かったわ』という住民からのひと言を喜びに、組織全体で民生委員児童委員が活動しやすい環境づくりを、すすめていきたい」と正田会長。地域とともに歩み続ける池田市の民生委員・児童委員の姿を垣間見ることができました。

池田市民児協の取り組みについて熱く語る正田会長



池田市民児協の「地区委員長連絡会」は、各地区の身近な相談役である地区委員長がひとりで悩みを抱え込むことのないように、また、情報共有や意見交換の場にと設置されたもので、今年で6年目を迎えました。月1回、開かれる地区委員長連絡会には全11地区の地区委員長のみで構成されています。「地区委員長だけが集まっているので、言いたいことが何でも言えることが良い点です。意見交換も活発に行われているようです」と吉村副会長。

地区委員長からも「連絡会で聞いた他地区の活動方法を参考にして、担当地区の活動に取り入れることもあります」「悩み事

同じ池田市でも高齢化が進んでいる地区、集合住宅が多い地区、子どもが多い地区など、それぞれ事情は違います。とはいえ、地域住民への支援や、欠員問題など、抱えている課題の多くは共通しています。「各地区で地区委員長

地区委員長連絡会での意見をフィードバック

を相談する場が定例化したことで、地区委員長同士のつながりが強くなり、お互いに支えあいながら活動できています」といった声が寄せられました。



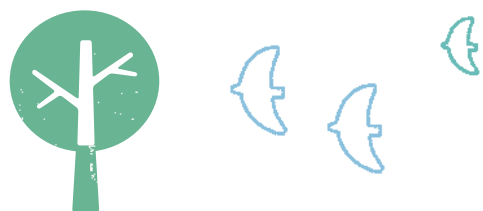
民生委員・児童委員さん

●池田市民生委員児童委員協議会●

地区委員長連絡会や部会の充実を通して
各委員の活動を支援

各市町村民児協では、民生委員・児童委員が活動しやすい環境をつくるためにさまざまな取り組みを推進しています。今回は、池田市民児協の取り組みについて、正田会長や地区委員長、各部会長の皆さんに伺いました。

ひとりで悩みを
抱えないために



民児協だより

1人1人に説明し、手渡します



大阪府北部に位置し、豊かな自然に恵まれた豊能町も少子高齢化が進み、高齢化率は26%に達しました。当協議会では、平成18年より「災害時一人も見逃さない運動」をスタート。当初、手探り状態だった活動も委員の地道な努力で実を結び、昨年からは行政、社会福祉協議会と民生委員児童委員協議会の三者による情報

の「共有化」によって「災害時要援護者支援活動」活動へと引き継がれ、大きく前進しました。調査・配布・マップ作成は民生委員が行い、作成された登録申請者台帳はプラスチックカプセルに入れて申請者に手渡しし、各戸の冷蔵庫内に保管をお願いしています。これは災害時だけでなく、病気や怪我などの緊急時にも

カプセルは冷蔵庫で保管



役立つツールとなっています。

もしもの災害に備えて、情報の更新・避難誘導・避難所での支援のありかたなど、これからも多くの課題に取り組んでいきます。そして「向こう三軒両隣」の助け合いで、安心と安全な地域づくりのため「日常見守り」を大切にしていきたいと考えています。また、活動をわかりやすくパワーポイントにまとめ、時期を捉えて啓発活動にも努めています。

豊能町民児協

会長 森安敏之

豊能町

災害時要援護者支援活動の取り組み ～日常の見守りを大切に～

民生委員・児童委員が活動しやすくなるために



第2回 ～八尾市民児協～

手作りのお土産をわたします



民生委員・児童委員が活動をすすめるうえで、地域住民や関係機関に民生委員・児童委員の存在や活動について理解を深めてもらう、「顔の見える」関係づくりは重要です。

今回は活動展示展の取り組みを通して、PR活動の方法や成果について取材しました。

地域住民とのふれあいの場

活動展示展は、民生委員児童委員協議会が主催し、民生委員・児童委員の日活動強化週間にあわせて市役所ロビーで2日間開催。全16地区の民生委員・児童委員が同じ大きさの模造紙に工夫を凝らして、とくに伝えたいことを展示します。

ある地区では、担当エリアを色分けした地図と民生委員の顔写真を掲載し、その地域の担当民生委員の顔と名前がすぐに分かるようになっています。また、別の地区では、広げよう地域に根ざした思いやり、という全民児連のスローガンとともに、高齢者や子育てサロンなどの活動を写真や絵、手作りの作品をつまみ飾りながら分かりやすくまとめ、多くの住民が足を止めて熱心に展示を見る姿、民生委員・児童委員とお話する姿が見られました。

会場には民生委員・児童委員が常駐している相談コーナーや手作りのおみやげを手渡す受付もあり、

地域住民とのふれあいの場、いきいきと活動されている姿が印象的でした。

民生委員・児童委員のためにも

平成17年から「地域住民の人々に民生委員・児童委員の活動を理解してもらう」ためにはじめた取り組みですが、その翌年からは、民生委員・児童委員も他の地区の活動を知り、自分達の活動をふり返る場になればといことから、民生委員・児童委員も必ず参加するように呼びかけました。それから毎年の行事として根付いていった事業ですが、昨年のインフルエンザの流行によりやむなく中止。市町村単位の取り組みから地区ごとでできるPR活動として、子ども達や地域住民と顔見知りになれるよう、全地区で小学校の登下校、安全パトロールを毎日実施することになり、現在も続いています。

関係機関とのネットワークを強めながら

今後も「地域住民が身近に民生委員・児童委員活動を感じてもらえるような取り組みをすすめるながら、民生委員・

いきいきと活動しています



工夫を凝らした活動展示

児童委員自身もお互いに高めあっていければ」と備後副会長。中土会長は、ラジオのFM放送「情報プラザ八尾」に副会長や部長とともに出演し、活動を紹介しながら「どんなことでも民生委員・児童委員に相談していただければ他の関係機関と協働して解決に向けて善処します」と力強く訴えました。さまざまな関係機関とのネットワークや民生委員・児童委員同士のつながりを強めながら、PR活動に取り組んでいく決意がうかがえ、今後の取り組みが期待されます。

「民児協だより」



ハートフルプレゼンターの中学生が心を込めて渡します

訪問を心待ちにしています



「こんにちは、おばあさん、お誕生日おめでとう」玄関先では、ハートフルプレゼンターの「ハッピーバースデイトゥーユー」の歌が続きます。「とてもうれしいよ、この歳になつて誕生日を祝ってもらうなんて」顔いっぱい笑みで目には涙がうつすら。この日は、単身高齢者への友愛訪問の日です。ハートフルプレゼンターたちがグループを作り、誕生日にバースデーカードと花束を持って訪問します。この活動は、校区の中学生と民生委員の協働活動です。

事業の主体は、校区福祉委員会ですが校区では特に単身高齢者に関することは、民生委員が引き受け活動を展開してきました。平成7年に、民生委員たちが単身高齢者の方々に安否確認も含め誕生日に花束を持って友愛訪問をしたのがはじまりです。当時から「こ

寝屋川市 民生委員と中学生による協働活動 ―友愛訪問―

の歳になつて」と喜ばれ、この活動を通じて単身高齢者たちと民生委員に親近感が生まれ、コミュニケーションが取れ活動がしやすくなってきました。

時の流れとともに中学校と校区福祉委員会が福祉教育との関係を深めていく中で、平成13年から中学生がハートフルプレゼンター（ボランティア）としてかわつてくれることになりました。毎月民生委員たちは、それぞれの担当地区のその月の対象者たちに在宅などの都合を聞き、責任者はこれらをまとめて中学校と花屋さんへ連絡。学校では担当の先生がハートフルプレゼンターを募り、応募した彼らはバースデーカードに対象者の名前、メッセージを書き、当日花屋さんから届いた花束とカードを持って友愛訪問をします。対象者たちは、「今年はど



バースデーカードにはたくさんさんのメッセージが

プレゼントの花束

んな子が来てくれるのかな」「何人来てくれるのかな」と心待ちにしています。子どもたちも、この活動を通じて地域の単身高齢者たちと親しくなり、高齢者の理解も深まってきたりと確信しています。

これからも、この友愛訪問は中学生と民生委員の協働活動として続いていくでしょう。また、私たち民生委員も中学生をはじめ地域住民の協力を得ながら、声かけ、見守り、安否確認を行い、「孤独死」のない地域を目指して活動していきます。

☆友愛訪問活動が、平成21年度《子どもさわやか賞》を受賞しました。大阪児童福祉協会

寝屋川市民児協
明徳・宇谷校区 山谷敬子

松原市

「ちびっこひろば・みんなで遊ぼう」を開催

平成21年10月24日松原市立市民体育館で「ちびっこひろば・みんなで遊ぼう」が開催されました。ちびっこひろばは、こどもと子育て家庭を支援するまちづくりをめざす民生委員・児童委員の活動の一つとしての取り組みであり、134組の親子とスタッフの委員あわせて400人を超える参加となりました。

前半は人形劇が始まり、「三びきの子ぶた」とおおかみの昔話は民話の面白さで、子どもたちを人形の世界へ誘い、人形の動きに笑ったり、驚いたり子どもたちは大喜び！後半のコーナーは各地区委員と主任児童委員連絡会が担当しました。

紙トンボ、紙皿のポシェット、アートバルーンのもの作りコーナーでは、完成時にみんな大喜び。輪投げ、的あて、バルーンブロック、袋つり、魚つりの



人形劇を熱心に見る子どもたち



遊びコーナーは大盛況

遊びコーナーでは、いろいろな工夫があり、時間いっぱい夢中に遊んでくれました。松原市からは健康、育児の相談コーナーに保健師、保育士さんが参加し、事業内容の充実を図っていただきました。プログラムの最後は、全員のアンパンマン体操で締めくくりました。ここでも子どもたちは「楽しかった」…と、このあと、プレゼントを手にしてまたにっこり。

開催にあたっては、松原市、

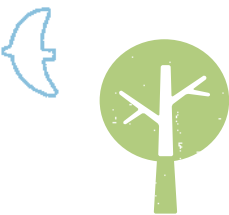


松原市社会福祉協議会と市内の保育所、幼稚園、子育て支援センター、青少年会館の協力を得て、さらに、委員一人ひとりがポスターの掲示やチラシの配布をするなどのPR活動を行い、市内ほぼ全域から参加がありました。

今回は平成21年度大阪府民児協連の児童委員活動推進事業に対する助成事業としての取り組みでしたが、参加者からは次回開催を望む声が多く聞かれました。親同士のつながりや支援する側のつながりが必要となつていきます。今後、市独自の開催ができるよう検討をしていきたいと考えています。多くの皆さんとともに、子どもたちの健やかな育ちの環境づくりをしていきましょう。

松原市民児協

副会長 林豊



泉佐野市

子育て部会の活動について

泉佐野市民児協子育て部会は、女性部会の発展的解消によって立ち上げた部会です。主な活動として昨年の夏休みに4回目を迎えた「中高生と乳幼児のふれあい交流事業」と、10月に16回目を迎えた「親と子の人形劇

中高生・乳幼児ふれあい交流事業



の集い」を開催しています。これらの事業に欠かせないものとして人形サークルがあります。サークルは民児協全体から募集して、人形劇の部、手作りの部で構成され、現在それぞれ15名余りで活動しています。人形劇の部は、脚本、人形の製作、背景・小道具・紙芝居・ペープサートなど、全員で協力して手作りし、また練習を重ねて、月に2〜3回の活動日をフルに頑張っています。手作りの部は、「人形劇の集い」の当日に手渡すお土産の製作を担当しています。今までにマスコット・サイコロ・タオル掛け・お手玉・サッカーボールなどを作りました。給食袋位の大きさのかわいい布袋が好評です。サークルの人達は地域での

泉佐野市民児協

部会長 長田 誠子

活動は他の委員と同様に行きた上でのサークル活動です。人形サークルの活動によって、民生委員・児童委員をより身近な相談者として感じてもらっているのではないでしょう



人形劇のつどい



人形劇のつどい

東大阪市

地域の子どもたちと桜の公園



東大阪市民児協ではさまざまな関係機関と連携・協働しています。その1つである東大阪ロータリークラブでは、金岡公園（東大阪市長瀬町）にこれまで120本の桜の木を植樹されており、中には歳

月の経過するうちに運悪く寿命を終えた木もありました。2009年2月18日に、同クラブは社会奉仕事業として「地域の子どもたちに光と潤いを」植樹した木と、それを植えた子どもたちの成長を合わせ見守る」というコンセプトのもと、公園に追加植樹を行いました。公園の周りの幼稚園児、小学生、中学校生の約440名からの参加を得て、父兄、園長、校長先生方をはじめ、東大阪市長も参加し、地域の連帯感の醸成にも寄与できたようです。生徒たちの合唱を交えて桜の下で開かれた催しは、寒雲、寒空の時期にもかかわらず、当日は小春日和という天の恵を得た上、公園という地の利もあって人の和が生まれ、周囲からも高い評価をいただきました。



子どもたちの成長を関係機関とともに見守っていきます

先達の教えとして100年の繁栄のためには、よい子どもを育てようと習いました。そして「能く教えればこれに従う」ともいいます。現下の少年・少女にも思いを馳せて、私たちは桜の公園で育ちゆく木と、それを植えた子どもたちの成長を合わせて、関係機関とともに見守っていききたいと思います。

東大阪市民児協広報部会

府民児協連 REPORT

●街頭PR活動●

日 時 平成22年5月12日
11時～12時

場 所 なんば高島屋前

府民児協連として はじめて実施!! 街頭PR活動!



拡声器で呼びかける
広報委員 野口会長



ばんそうこうを配付する
広報委員長 福永会長

PR活動をさらに推進していくためには、もっと府民と直接ふれあいながら、民生委員・児童委員の役割や意義について理解を深めてもらう機会をもつことが重要であるとの主旨から、広報委員会ではじめて街頭PR活動が企画されました。府民児協連の会長、副会長、広報委員会委員、合計11名が参加のもと、実施しました。

当日は参加者全員が民生委員・児童委員のたすきをかけ、4つのパネルをかがねながら、拡声器で「地域住民に寄り添った相談援助活動」や「災害時一人も見逃さない運動」の活動を紹介。結びに「一人で悩まずに気軽に地元の民生委員にご相談ください」と呼びかけました。また、一人ひとりにばんそうこうやPRパンフレットを配付、道行く人からは「民生委員さんの活動は大変ですが、がんばってください」という声が寄せられ、1時間で2300個のばんそうこうを配付することができました。「PR活動はすぐに明確な結果を得ることはできないが、今後も着実に取り組みを続けていきたい」と羽原会長。福永広報委員会委員長は「今年度の取り組みをさらに効果的なものにするため今後の取り組みを委員会で検討し、府民児協連全体で議論していければ。その第一歩となる重要な取り組みではなかったが」と今回のPR活動を評価しました。

府民とふれあいながらPR

民生委員・児童委員の役割を理解してもらうために



開始前の打合せ風景

このような活動に加え、府民児協連では、これまで広報委員会をはじめとする部会や委員会でもさまざまな広報ツールを企画・作成してきました。広報委員会では平成20年に府民児協連のホームページをリニューアルし、現在、充実強化に取り組んでいます。また、昨年は民児協活動DVD「つながるWA! 民生委員・児童委員のあゆみと活動」を作成しました。活動しやすい環境づくりに向けた検討会で作成したPRパンフレットとあわせて広く活用を呼びかけています。

PR活動を府内全域に広げるために

さまざまな取り組みを単位民児協や市町村民児協で行っているPR活動と連携しながら府内全域に広げているよう、今後も民生委員・児童委員活動のPRに向けて府民児協連全体で取り組んでいきます。

春の勲章・褒章受賞者のご紹介

平成22年春の勲章・褒章受賞者が、4月29日付で発表されました。民生委員・児童委員として次の方がたが受賞されました。おめでとございます。

- 瑞宝双光章
岩佐 博 会長(岸和田市民児協)
中土 治美 会長(八尾市民児協)
- 藍綬褒章
大西 芳治 会長(東大阪市西第二民児協)

主任児童委員の動き

5月28日、児童虐待防止に対する取り組みをテーマに研修会が開催され、主任児童委員101名が参加。児童養護施設の日常取材制作されたドキュメンタリー番組『家族の再生〜ある児童養護施設の試み〜』の鑑賞と、大阪府中央子ども家庭センターより山田真奈美さんを迎え、子ども家庭センターの現状や取り組みについての報告を受けました。参加者からは「児童養護施設で暮らす子ども達の素直な言葉がとても心にひびいた」、「地域ぐるみで子ども達を守るために、まずは速やかに通報することを知りたい」との声が寄せられました。

また、平成22年度児童委員活動研究集会は、7月12日13時30分～15時30分まで、大阪府社会福祉指導センター5階ホールにて開催いたします。非行など青少年が抱える課題についての講演や、子どものさまざまな課題に悩む親たちの活動報告などを行う予定です。



この他、今年度の主任児童委員関係の会議、研修会は以下のとおりです。

日程	内容
9月13日～14日	全国主任児童委員研修会(神戸市)
10月(予定)	第2回主任児童委員連絡会(研修会)
12月17日(予定)	第3回主任児童委員連絡会(全体会議、情報交換)
平成23年2月(予定)	主任児童委員研修会(研修センター実施)
2～3月(予定)	全国児童委員研究協議会

事務局だより

大阪府民児協連事務局 新体制のお知らせ

平成22年度を迎え、4月から事務局の担当者を変更しております。

- 事務局長 青木 美知子
- 事務局次長 奈良 公美
- 西原 弘将(新)
- 土生 祥代
- 高瀬 典子

宜しく願っています。

民生委員・児童委員活動 PRパネル貸し出します!

本紙13Pでも取り上げました街頭PR活動を実施するにあたり、PRパネル(515ミリメートル×728ミリメートル)を4枚作成しました。「あらゆる人々が地域の一員として尊重される福祉と共生のまちづくりを推進しています」など、民生委員・児童委員の活動を分かりやすく伝えることができるパネルです。貸出もいたしますので事務局までお気軽にお問い合わせください。

